

2017年度 世界展開力事業
ペルー大学交流プログラム（短期留学）帰国報告書

生物産業学部・生物生産学科・二年・42216034・尾崎大樹

1. 当初の目的

今回の留学で私は三つの目的を上げていた。一つ目が現地でどのような農業がおこなわれているかを知ることである。なぜなら南米の数多くの作物に興味があったからである。二つ目は、今まで一度も触れたことのなかったスペイン語で、人と触れ合うことにより、ある程度の知識を持つことで、たくさんの言葉の違う人と触れ合う技術がほしいと考えていたからである。三つ目が文化を知ることである。ペルーの建造物や習慣、食などを知りたいと考えていたからである。またこれらの主要な留学をすることを決めた三つの目的の他に、その他にも私が興味を持つことのできる知識や体験などの経験をするのも一つの目的であった。

2. 目標達成のための現地での活動

これらの目的を達成するために現地では、様々な活動をした。留学内では三つの町に訪れることが出来た。首都のリマ、アンデス山脈にある町カハマルカ、アマゾン川の支流ウカヤリ川の近くの町プカルパの三つである。その中で農業では初めにペルーの国としての特徴について知ることが出来た。ペルー国内は大きく3つの地域に分けることが出来る。その中で多くの発見をすることが出来た。砂漠地帯である海岸よりの地域では、リマのラモリーナ大学内で多くの研究とともに、様々な作物を見ることが出来た。大学内で一番力を入れている研究は有機農業である。近年日本でもオルガニックと呼ばれ化学成分を使用しないので安心で安全として日本でもかなりの流行となった。研究の目的は南米の作物や果物は栄養価が高いものが多く、その価値を高く維持することにより、国外の需要を高めるための研究であることが考えられる。大学内ではアボカドやコーヒー、様々な色の唐辛子などの日本では見かけない作物もあった。そのほかに牛や馬などの一般的家畜から、アルパカやラマなどのペルーの特徴的なものまで飼育していた。



特にアルパカの毛は高品質なためお土産などの観光資源としての価値も高く感じられた。今回砂漠地帯は首都のリマのみだったので、地域固有の作物を見ることはできなかったが、日本では見られない農学の研究はとてもいい経験になった。次にアンデス山脈にある高山地帯である山間部の地域ではおもに酪農が中心の農業が展開されていた。家畜の種類で珍しいものは、[c u y] と呼ばれるモルモットの仲間である。それに加え標高が三千メートルを超える地域でも日本とは違い作物が育つ環境のため、訪れたカハマルカでは紫トウモロコシやキヌア、牧草、その他の町ではペルー主要輸出物のコーヒーなどがある。最後にアマゾンの森林地帯にある地域では、実に数多くの果物を見ることが出来た。いくつか例を挙げるとカムカムやマンゴー、アサイーなどである。アマゾンの果物の特徴としては、栄養価がとても高いことが上げられる。なぜなら、雨季と乾季の気温などの差が激しいためそれに順応するための進化ではないかと考えることが出来る。先ほど上げたカムカムは今回の留学では代表的な果物でビタミンCの保有量が世界1位だと言われている。そのほかにもペルーではとても多くの環境に適用することが出来るじゃがいも、マラリアに効く効果を持つキニーネという成分を持つキナ、リウマチやがんにも効く成分を持つキャットクローなどペルーの環境が多様な特徴を持つ作物を生み出し人々に役立てられていることも知れた。これらの作物をじかに見ることが出来たことは非常にいい経験になったと考えている。その経験を踏まえて、私は今年二年生なので今年度の最後の研究室を選ぶこ

とに役立てようと考えている。

次に語学では大学内の生徒との交流が非常にいい経験になった。夜のご飯を一緒に食べたときや、スペイン語でカエルという意味の[S a p o]と呼ばれるゲームをしたとき、



学生たちと折り紙や書道をしたとき、リマを観光案内したときには、「すごい」という意味のスペイン語 [C h e v e r e] という言葉を教えてもらい代わりに日本語を教えると、ほかの単語はないかと言われたので「やばい」という単語を教えたときには、非常に面白く感じたらしく、何回も連呼している姿は見えていて楽しかった。その他にも買い物での注文や値段の利き方など会話もたくさん勉強になった。留学中かなりの回数ハンバーガーを食べることが出来たので、ハンバーガーやドリンクの注文やある程度完璧にできるようになった。

最後に文化ではスペインの文化が混ざり合っていることを強く感じる事が出来た。ペルーはもともとスペインの植民地であったためである。スペインは支配した場所に [P l a z a d e A r m a s] と呼ばれる広場をつくりその近くに教会や役所などを作る習慣があるため、協会はスペインのサグラダファミリアのように彫刻が使用され、



スペインらしさが非常に多く残っていた。そのほかに食文化の面ではバナナやペルー原産の数多くのじゃがいも、紫トウモロコシのジュース [Chicha]、炭酸飲料のインカコーラ、魚料理のセビーチェ、南米の果物のジュース、大学内の交流会で食べたハーブティー、現地で養殖の体験をすることのできたアマゾン川の魚のピラルクなどを食べることが出来た。それに加えていくつかの市場を訪れることもできた。訪れた時期は乾季だったので市場に出ている果物は多くないがそれでも日本のスーパーマーケットに置かれている作物の何倍もの種類が店頭に並んでいた。



これ以上の種類を見ることが出来なかったのは少し残念に感じたが今後訪れる機会があればぜひ見てみたいと考えた。また日本のアニメやゲームなどのポップカルチャーがとても浸透していることにも驚いた、一番驚いたのは北朝鮮のミサイル問題のニュースである。ペルーでもかなり注目されているらしく帰国後に北朝鮮大使が追放されたとニュースで見た。日本人より危機意識が高いと感じたのも、文化の違いの一つだと考えられる。

また当初の目的に加えて様々な興味を持つことのできた体験ができた。いくつか例を挙げるとまた訪れたアマゾンの町プカルパでのモートタクシーと呼ばれるバイクのタクシーには中南米などのテレビでよく見かける景色にとっても興奮することが出来た。炭酸があまり得意ではないので、インカコーラを他の留学生ほど飲むことが出来なかった。これからは炭酸に挑戦してみようと考えた。またアヤワスカと呼ばれる強い幻覚作用をもたらす作物では強烈な苦みの影響で依存症がないため薬物依存の治療に使用されているらしく、これもとても興味がわいた。

3. 目標達成の自己評価

今回の留学での三つの目的はすべて想定していたよりも多くの知識を得ることが出来たと考えている。農業では特にトウモロコシなどの北海道内で栽培されている作物や、非常に数多くの種類と特徴がある南米の果物などの知識を数多く得ることが出来た。語学においても話すことが楽しく前以上に勉強意欲がわいた。文化においてはおそらく一生ものの経験を何度も体験することが出来た。また帰りの飛行機の間際にサイクロンの影響を受けたことや、アメリカでのトランジェットの際にメキシコの地震を心配されるなどおそらく人生で一度きりの経験をする事が出来た。

4. 今後の取り組み

今後は留学で得た知識を使い、勉強や今年度の研究室選び、来年度の研究室での研究内容では今回の留学で学んだ害虫駆除に役立つなどの、様々な効果を持つ作物を北海道でも利用できないかなどの研究をしたいと考えている。また数多くのジャガイモが存在するペルーで、北海道のでんぷんを多く含むジャガイモの代わりになるものがあるのではないかと考えている。語学もこれからは意欲的に勉強していこうと考えている。それに加え、元々の私の趣味である旅行や料理などに生かしていこうと考えている。特に旅行の面ではマチュピチュなどの世界遺産に観光として訪れるために、もう一度ペルーに行こうと考えている。

5. プログラムについての要望

最後に留学についての要望は、おそらくオホーツクキャンパスだけだと考えられるが、私たちが調べた結果、予防接種を受けるところが往復で一日かかるところにあるものもあり、あまり近くないので家畜に近づくとかジャングルに入ることもあったので任意では

あるが、おそらく多数の学生が受けるべきだと考えるのでどこで受けられるかなどを上げてもらいたかったことや、留学に行った先輩などがあまり多くないので予定表は現地との調整で遅くなることは無理もないと考えられるが、参考程度に去年の予定表でもいいのでもらいたかったこと、今回の留学は私自身かなり言ってよかったと思えたのでいろいろな人に来年は広めたいこと、私だけだと考えられるが、生物生産学科の二年の夏休みには家畜自習があり、やはり留学は二年次の学生が一番多いので、調整していただくとかなり助かると感じた。